

「キリストの死に備える」マタイ 26 : 1-30

26:1 イエスは、これらの話をすべて終わると、弟子たちに言われた。 26:2 「あなたがたの知っているとおりに、二日たつと過越の祭りになります。人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」 26:3 そのころ、祭司長、民の長老たちは、カヤパという大祭司の家の庭に集まり、 26:4 イエスをだまして捕らえ、殺そうと相談した。 26:5 しかし、彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起こるといけないから」と話していた。 26:6 さて、イエスがベタニヤで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられると、 26:7 ひとりの女がたいへん高価な香油の入った石膏のつぼを持ってみもとに来て、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。 26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんなむだなことをするのか。 26:9 この香油なら、高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」 26:10 するとイエスはこれを知って、彼らに言われた。「なぜ、この女を困らせるのです。わたしに対してりっぱなことをしてくれました。 26:11 貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。 26:12 この女が、この香油をわたしのからだに注いだのは、わたしの埋葬の用意をしてくれたのです。 26:13 まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」 26:14 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちのところへ行って、 26:15 こう言った。「彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。 26:16 そのときから、彼はイエスを引き渡す機会をねらっていた。 26:17 さて、種なしパンの祝いの第一日に、弟子たちがイエスのところに来て言った。「過越の食事をなさるのに、私たちはどこで用意をしましょうか。」 26:18 イエスは言われた。「都に入って、これこれの人のところに行って、『先生が「わたしの時が近づいた。わたしの弟子たちといっしょに、あなたのところで過越を守ろう」と言っておられる』と言いなさい。」 26:19 そこで、弟子たちはイエスに言いつけられたとおりにして、過越の食事の用意をした。 26:20 さて、夕方になって、イエスは十二弟子といっしょに食卓に着かれた。 26:21 みなが食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」 26:22 すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう」とかわるがわるイエスに言った。 26:23 イエスは答えて言われた。「わたしといっしょに鉢に手を浸した者が、わたしを裏切るのです。 26:24 確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はわざわいです。そういう人は生まれなかったほうがよかったです。」 26:25 すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ」と言われた。 26:26 また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福した後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」 26:27 また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。 26:28 これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。 26:29 ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」 26:30 そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。

## 導入

私たちは、人生の大切な節目や行事に備えて準備をします。

多くの日本人にとっては、ゴールデン・ウィークは貴重なお休みです。7週間先ですが、まだ旅行の予約をしていなければ、今からホテルを取るのはむずかしいかもしれません。例えば、富士山近辺の宿泊施設は、すでにほぼ満室だそうです。

娘のカリスは、半年以上前から双子の出産準備をしてきました。子育てに必要なものを買そろえるのに大忙しでした。中でも、ベビーカーが一番高価な買い物となるので、自分たちに合ったものを選びようとじっくり検討しました。

たいいてい人は、自分にとって大切なことに備えて準備をします。

けれども、自らの死の準備をする人は少ないというのが私の印象です。過去約 20 年間で 40 回ほど葬儀の司式をしましたが、もっとも良い状態で葬儀を執り行えたのは、故人が生前に葬儀の準備をしていた場合です。

亡くなられた本人が前もって、歌ってほしい賛美歌や葬儀で紹介してほしい自分の生い立ちなどをあらかじめ選んでおきます。牧師が葬儀で語る説教の聖書箇所までリクエストされた方もいました。

このような葬儀では、私の荷は軽く、ご遺族にとっても最善の葬儀だという確信をもって司式することができました。

葬儀の内容に誰かが不服だったとしても、批判の矛先は私ではなく故人です。

もちろん、そのような場合に批判などあるはずもなく、すべてスムーズに進められます。

今日から、イースターのシリーズ説教に入りますが、その第一回は「キリストの死に備える」と題してお話します。

イエスの死は、イエスのお働きの中でもっとも重要なできごとです。ですからイエスは、弟子たちをじゅうぶん備えようとなさいました。

マタイは、3 つのできごとをとおして、イエスがどのようにご自身の死に備えられたか語ります。大きなできごとがふたつと、小さなできごとがひとつ起こり、イエスが捕らえられることになりました。

そのできごととは、高価な香油がイエスに注がれたこと、ユダがイエスを裏切ることにしたこと、そして、イエスが弟子たちと最後に祝われた過越しです。

これら 3 つのできごとを詳しく見る前に、26 章 1-5 節に注目しましょう。

そこで、イエスが弟子たちに多くのことを教えられた後、ご自身がいつ死なれるのかをはっきりと伝えられました。

二日後にはユダヤ人の祭りである過越しを祝います。そのときに、イエスは十字架につけられるために捕えられます。

ご自身の死期として過越しを選ばれたのは、非常に重要なポイントです。

ユダヤの暦の中で、イエスが死ぬのにふさわしい時は他にありません。

過越しは、あらゆる意味でイエスの死と直接関わっているからです。

4 月 9 日の過越しとセーデル体験で、イエスと過越しの関わりについては詳しく聞くこととなりますが、ここでもっとも重要な関わりをひとつだけお話しておきます。

もっとも重要な関わりは、子羊が殺され、その流された血が神の御怒りから覆う役割を果たすことです。

神は最初から、人の罪の犠牲として身代わりに動物の死を要求しておられました。

人が自らの罪のために死ぬ代わりに、動物が身代わりとなります。それは、神の聖なる要求を満たすためです。

ヨハネ 1 : 29 で、ヨハネがイエスを見たとき、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」と言いました。

ヨハネは、イエスが地上に来られたのはこの世の罪を取り除くためであり、子羊のように身代わりの死を遂げるためだと確信していました。

ユダヤ人は、先祖が大昔にエジプトで家の門柱やかもいに子羊の血を塗り、長子が死なずに救われたことを祝いました。それが過越しです。今度はイエスが、過越しの羊となって、罪と神の御怒りから人々を救われるのです。

こういうわけで、イエスが死ぬのに最適な時節は、過越しの他にありません。だから、この時を選ばれたのです。

ご自身の死期をあらかじめ予言することで、イエスがこのできごとを掌握しておられることがわかります。

人々は何度もイエスを殺そうとしましたが、できませんでした。

イエスが働きを始められた頃から、ユダヤ人はイエスを殺そうとしていました。

ヨハネ 5:18 このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。

3 節には、祭司長や律法学者、長老が、大祭司の家に集まってイエスを殺す相談をしていたとありますが、そのすべてのできごとは、イエスが支配しておられました。

### 適用

ここで、私たちに関わる大切な教えがあります。それは、私たちの人生に起こることは良いことも悪いこともすべてイエスの支配の下にあるということです。

イエスご自身にとって、死は苦しい経験でした。十字架の死は、もっとも惨い死に方です。あまりにも惨いので、ローマ帝国も死刑の執行法として十字架刑を採用しなくなったほどです。

イエスにとって、死は悪いできごとであり、非常に苦しわれました。イエスは完全な神であると同時に、完全な人でもあったからです。私たちと同じように痛みを感じられます。

けれども、私たちにとっては、イエスの死は非常に良いできごとです。イエスの死がなければ、私たちの救いはありません。

死んでも天国には行けません。

イエスをご自身に悪いことが起こるのを許されました。それは、そのおかげで私たちが益を被り、良い経験をさせていただくためです。

私たちは誰でも、イエスから良い経験をさせてもらいたいと願いますが、その反対は望みません。良くないことが起こると、神が間違いをされたとか、どうして親切にしてくださらないのか、と、思ってしまう。

今日、皆さんにお伝えしたいことがあります。イエスの御手からいただくものはすべて、良いできごとでも悪いできごとでも、私たちが最善のかたちに造り変えるために用いられています。イエスは、ご自身が私たちのために備えてくださった未来のために、私たちを整えておられるのです。私たちに物事の全体像が見えません。けれども、イエスはすべてをご存じです。私たちが痛みを向けているとき、イエスは天と天における益に目を向けておられます。

私たちが死ぬことさえも、悪いできごとには思えますが、天国と永遠のからだに通じる入口なのです。

イエスを自らの救い主として受け入れ、このお方を愛しているなら、良いことも悪いこともすべては、イエスの御手をとおして与えられた経験です。これがどうか皆さんの励みとなりますように。

イエスはおっしゃいました。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」  
(ヘブル 13 : 5)

では、イエスが捕えられる前の 3 つのできごとを見ていきましょう。

#### 1. ベタニヤでイエスが油注がれる。(6-13 節)

イエスと弟子たちはベタニヤにいました。ベタニヤはエルサレムからそれほど遠くはありません。その町でイエスと弟子たちは、皮膚病患者のシモンの家で食事に招かれました。おそらく、シモンはイエスに皮膚病を癒していただき、そのお礼として食事に招いたのでしょう。

食事の途中で、ひとりの女が入ってきました。マタイはこの女の素性を明かしますが、ヨハネはこの女がマリヤだったと語ります。(ヨハネ 12 : 3) マリヤは、壺に入っていたとても高価な香油をイエスの頭に注ぎました。ヨハネ 12 : 5 によると、この香油は 300 デナリの価値がありました。これは、平均的な労働者の年収に匹敵する金額です。

日本円にすると、300 万円ほどでしょうか。

日本人女性が 300 万円の香水を買ったとしたらどうでしょう。

ずいぶん贅沢な話です。しかも、それをぜんぶいっぺんに誰かにかけてしまったらどうでしょう。なんともったいないことを、と思うのではないのでしょうか。そう思うのも当然です。

けれども、この場面はそれとは少し違う状況です。

香油を注がれたのは、普通の人ではありません。

油を注がれたのは神の子でした。そのお方は、人間の歴史でもっとも犠牲的な行為をしようとなさっているところでした。

イエスは、全世界の罪のために死のうとしておられたのです。

究極の犠牲となろうとしておられたのです。

ですから、イエスがこの香油を注がれても、それは無駄使いではありません。

この行為は、イエスがなさろうとしていたことに似ています。

香油をささげることは、金銭的な犠牲が伴いました。イエスは全世界の罪のためにいのちを犠牲にしようとなさっていました。

次に注目すべき点は、香油を注いだ女性についてです。

彼女は明らかに、当時の状況を理解していました。

弟子たちよりも知恵があったように見受けられます。

これから起こる事柄についてしっかり考えて受け止めていたようです。

彼女は、神の知恵によって、数日後に何が起こるのかを心得ていました。

あなたをずいぶん助けてくれた人がもうすぐあなたの罪のために死ぬことがわかったら、あなたならどうしますか。

自分の持っているもので一番高価なものを差し上げるのではないのでしょうか。

イエスは、この女性の行為を **100%** 支持されました。

イエスは、彼女がしたことは、この香油の最高の使い道だったとおっしゃいました。

これは埋葬の用意のためになされた犠牲的な行為だとおっしゃいました。

そして、世界中どこでも福音が伝えられる所では、この行為も語り継がれて証となるとおっしゃいました。

イエスのために払った犠牲には、必ずイエスが目を留めてくださいます。そして、神の知恵に従って、イエスはその犠牲に報いてくださいます。

このケースでは、**2000** 年もの間、世界中で証となれたことがマリヤにとってすばらしい報いでしょう。

## 適用

ここには、私たちが日常生活に取り入れるべき教えがあります。

イエス・キリストの死と復活が自分自身にとってどのような意味かを理解し、感謝しているなら、何らかのかたちでイエスにありがとうと伝えたいと思うはずですが。

感謝を伝えるには、残り物を与えるのではなく、自分の持つ最善をささげることです。

与えられたお金も才能も時間も最高の部分をすべて喜んでイエスにささげます。

イエスにささげられるようなものは自分にはないと思うかもしれませんが、私たちが持っている最高のものをイエスにささげるなら、私たちは祝福を受け、充実した人生を送れます。それだけでなく、イエスをたたえることにもなります。イエスは私たちの「礼拝」を喜んでくださるからです。

**11** 節で、イエスとともに過ごすことはどんなに大切な働きにも勝るとイエスはおっしゃいます。イエスのために奉仕するよりも、静まって祈り、聖書を読むことが一番の犠牲である場合もあります。

イエスの前に静まる時間は、私たちにとってもイエスにとっても尊いものです。

イエスに仕える私たちは、イエスとともに過ごす時間をなおざりにしてはいけません。

では、イエスの死の備えとして起こったふたつめの出来事に話を進めましょう。

## 2. ユダがイエスを裏切ることに同意する。(14-16 節)

マタイに記されたふたつの大きな出来事の間、ユダがイエスを裏切ることに同意する場面が登場します。

この記録に費やされたのはたった **3** 節ですが、重要な出来事です。

新約聖書からは、イスカリオテのユダがお金に目のくらんだ人だという印象があります。イエスと弟子の一行は、働きのためにイスラエル中を旅していましたが、このユダは一行の金庫番をしていました。

## ヨハネ 12:4-6

12:4 ところが、弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしているイスカリオテ・ユダが言った。12:5「なぜ、この香油を三百デナリに売って、貧しい人々に施さなかったのか。」12:6 しかしこう言ったのは、彼が貧しい人々のことを心に掛けていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かっていたが、その中に収められたものを、いつも盗んでいたのである。

ここでわかるのは、ユダにはお金とお金で得られる物に執着があったことです。ユダが祭司長のところに行ってまず尋ねたのは、「彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。」でした。これに対し、彼らは銀貨 30 枚を支払ったわけです。銀貨 30 枚は、5 週間分の労働賃金に匹敵します。また、奴隷の所有者に対する賠償金額でもありました。出エジプト 21 : 32 を読みましょう。

出エジプト 21:32 もしその牛が、男奴隷、あるいは女奴隷を突いたなら、牛の持ち主はその奴隷の主人に銀貨三十シケルを支払い、その牛は石で打ち殺されなければならない。

この出来事とお金の使い道に関するゼカリヤの預言は興味深い内容です。ゼカリヤ 11 : 4-13 を読みましょう。

### ゼカリヤ 11 : 4-13

11:4 私の神、【主】は、こう仰せられる。「ほふるための羊の群れを養え。11:5 これを買った者が、これをほふっても、罪にならない。これを売る者は、『【主】はほむべきかな。私も富みますように』と言っている。その牧者たちは、これを惜しまない。11:6 わたしが、もう、この地の住民を惜しまないからだ。——【主】の御告げ——見よ。わたしは、人をそれぞれ隣人の手に渡し、王の手に渡す。彼らはこの地を打ち砕くが、わたしは彼らの手からこれを救い出さない。」11:7 私は羊の商人たちのために、ほふられる羊の群れを飼った。私は二本の杖を取り、一本を「慈愛」と名づけ、他の一本を、「結合」と名づけた。こうして、私は群れを飼った。11:8 私は一月のうちに三人の牧者を消し去った。私の心は、彼らにがまんできなくなり、彼らの心も、私をいやがった。11:9 私は言った。「私はもう、あなたがたを飼わない。死にたい者は死ね。隠されたい者は隠されよ。残りの者は、互いに相手の肉を食べるがよい。」11:10 私は、私の杖、慈愛の杖を取り上げ、それを折った。私がすべての民と結んだ私の契約を破るためである。11:11 その日、それは破られた。そのとき、私を見守っていた羊の商人たちは、それが【主】のことばであったことを知った。11:12 私は彼らに言った。「あなたがたがよいと思うなら、私に賃金を払いなさい。もし、そうでないなら、やめなさい。」すると彼らは、私の賃金として、銀三十シケルを量った。11:13 【主】は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを【主】の宮の陶器師に投げ与えた。

ゼカリヤは、神に告げられたことを語っています。

神は、不実なイスラエルの牧者に対処なさいます。12 節では、ご自身がどれくらいの価値があるのかと尋ねられます。

すると彼らは銀貨 30 枚を払いました。神の価値はそれっぽちだったのです。

神は「それを陶器師に投げ与えよ。」とおっしゃいました。

そして、その通りのことが起こりました。

では、マタイ 27 : 1-10 を読みましょう。

### マタイ 27:1-10

27:1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した。27:2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。27:3 そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが

罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、27:4「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ」と言った。27:5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。27:6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから」と言った。27:7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。27:8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。27:10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」

ユダと銀貨 30 枚のことを、神は 538 年も前にあらかじめ語られました。そして、神が語られたとおりになったのです。

では、3 つめの出来事に話を進めましょう。イエスが最後の過越を祝われたことです。

### **3. イエスが最後の過越を祝われる。(17-30 節)**

17 節には、種なしパンの祝いの第一日に、とあります。

当時のユダヤの暦で、種なしパンの祝いと過越しは、8 日間のお祝いとするために一緒に祝われました。

そして、先に過越しを祝いました。

祭りの呼び名はどちらも通用しましたが、話し相手によって単語を使い分けていました。

ここで、過越しについて語っているのは明らかです。

旧約聖書の律法によると、過越しが祝われるのは、祭りの最初の日だけで、それは、ニサンの月の 14 日でした。

種なしパンの祝いはその後、ニサンの月の 15 日から 21 日まで続きます。

今はその個所を開いて読みませんが、過越しと種なしパンの祝いについては、出エジプト記 12 章と 34 : 18 に記されています。

イエスにとっては、弟子たちとともに過ごし、教えたり励ましたりできる最後のチャンスでした。この最後の日に何が起こったか、すべての会話記録はありませんが、マタイがこの日について語ったことに注目していきましょう。

マタイは、この最後の日について 3 つのことを語ります。

1. イエスが弟子たちに、過越しの準備をするよう命じられた。
2. イエスが、裏切り者が誰か明かされた。
3. イエスが、ご自身を過越しのパンとぶどう酒に例えられた。

#### **1. イエスが、過越しの準備をするよう弟子たちに指示された。**

イエスは 18 節で、エルサレムに入って誰かと会うよう弟子たちにお命じになります。その人が誰なのかは記されていません。弟子たちは、「先生が『わたしの時が近づいた。わたしの弟子たちといっしょに、あなたのとこで過越を守ろう』と言っておられる」と言うようにと指示されました。

イエスは、過越しを祝う場所を前もって手配なさっていたようです。早くに捕らえられてしまわないように、場所は内密にされていました。ユダが過越しを祝う場所を知っていたのなら、この時点でイエスを裏切ったのかもしれませんが。

イエスと弟子たちがともに過越しを祝うためには、それなりの時間をかけて準備をする必要があったでしょう。

その家の人は、すでに彼らのために過越しの準備を整えていたはずですが。

まず、傷のない雄羊を見つけなければなりません。そして、羊の骨を折ってはいけません。また、ユダヤ人がエジプトで味わった 400 年の苦しみを覚えるために、苦菜も用意しなければなりません。

さらに、最初の過越しのときに羊の血がユダヤ人の家の門柱とかもいに塗られたことを覚えるためにぶどう酒も用意されます。

ここで、過越しの羊の選び方について3つの質問をしたいと思います。

1. なぜ、雄羊でなければならなかったのでしょうか。
2. なぜ、傷のない完全な羊でなければならなかったのでしょうか。
3. なぜ、骨を折ることが許されていなかったのでしょうか。

簡単に言うと、過越しはイスラエル民族の間では実際に行う行事ですが、常に十字架上のイエスの死を指し示す象徴であるからです。

イエスは男性で、罪のない完全なお方でした。そして、ローマ帝国支配下では、十字架刑に処せられた者の骨を折るのが決まりでしたが、イエスの骨はひとつも折られませんでした。

ヨハネ 19 : 31-37

19:31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。 19:32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。 19:33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。

19:34 しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。 19:35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。 19:36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書のことばが成就するためであった。 19:37 また聖書の別のところには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」と言われているからである。

イエスと弟子たちのための過越しは、この出来事が起こる 1446 年ほど前に神が指示されたとおりに準備されました。

## 2. イエスは、裏切り者が誰かを明かされた。(20-25 節)

20-25 節で、イエスは裏切り者が誰かを明かされたと言います。イエスは、弟子たちの前で「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」とおっしゃいました。

22 節には、弟子たちが皆、「私ですか」とイエスに尋ねたとあります。つまり、弟子たちは皆、誰がイエスを裏切るのかまったく見当がつかなかったのです。まさか弟子のひとりが裏切るなんてと思いました。

このとき、ユダは弟子たちとイエスを明らかに欺いていました。

イエスは 23 節で、「わたしといっしょに鉢に手を浸した者が、わたしを裏切るのです。」とおっしゃいました。

ここで言う鉢には、エジプトから救い出される前にイスラエルの民が 400 年味わった苦しみを覚えるためにいただく苦菜が入っていたでしょう。

苦菜はここでは、苦々しい思いを抱いて裏切り者となったユダを指し示していました。

この個所について、ジョン・マッカーサーは次のように解説しています。

「ユダがキリストを捨てて裏切るという悪の決断は、神によって用いられた。それは、贖いというキリストの恵みの使命を成就するためである。汚れた人間も神の聖なる御手にかかれば、聖なる目的を果たすために用いられるのである。」

神は、ご自身の計画を成就するためにユダを用いられましたが、ユダを聖なる人にはなさいませんでした。実際、24 節を読むと、ユダが受ける罰はあまりにもひどいもので、生まれてこなかったほうがましだと記されています。

25 節で、イエスはユダが裏切り者だと本人に告げられます。

イエスのそばで3年も生活したのに、はした金のためにイエスを裏切れるとは、なんとも信じがたい話です。

人々の病が癒され、死人がよみがえり、盲目の人が見えるようになり、足の不自由な人が歩けるようになったのを、ユダはその目で見ました。また、小さな一人前の弁当から5000人が食事をいただき、イエスの一声で風も波も静まったのも見たはずで

す。これほどの奇跡の数々やあわれみ深い行為は、イエスが神であることを示します。それなのに、ユダはわずかな金額でイエスを売ったのです。

なぜそんなことができたのでしょうか。

その答えは至って簡単です。ユダは私たちと同じように罪の性質を持って生まれました。

ユダは、自分自身のうちにある罪深さを認識していなかったのです。

エレミヤ17:9は、「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」と語ります。

ユダは、自分自身のうちにある罪深さを解決してくれるお方よりも、お金を取ってしまいました。

イエスは、罪深い心のきよめと赦しは、世界中のお金を集めても代えられないほど尊いとおっしゃいます。

#### マルコ 8 : 34-38

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。8:36 人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。8:37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。8:38 このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」

今日、私たちの心はどこにあるのでしょうか。このように自問すべきです。

私たちはイエスの血によって赦され、きよめられていますか。

イエスに従っていこうという意志があるのでしょうか。

それとも、罪深い生き方が将来どんな結果をもたらすかなど考えず、自分の思いどおりに生きたいと思っていますか。

ユダには、きよい心でイエスに従うチャンスが長い間ありました。けれども彼は、はした金のために自分のたましいを売ってしまいました。

イエスは、わずかなお金よりはるかに尊いお方です。私たちの命をかける価値のあるお方です。

あなたはでしょうか。今日、イエスに心をささげようと思いますか。

### 3. イエスは、ご自身を過越しのパンとぶどう酒に例えられた。(26-30 節)

種なしパンを裂くのは、伝統的な過越しの祝いで普通に行われる儀式です。

イエスは、ここにまったく新しい意味を加えられました。

このパンを指して、ご自身のからだのしるしとなさったのです。

もともと、種なしパンは、エジプトでの古い生き方への決別の象徴でした。世俗的な生き方や罪に決別し、善良で聖なる新しい生き方を始めることを意味しました。

イエスのご自身に与えられた神の権威をもって、このしるしの意味を変えられました。

この日から、過越しのパンは人々の救いのためにいけにえとなったキリストのからだのしるしとなりました。

イエス・キリストの死を信じる人々すべてにとって「新しいいのち」を意味するのです。

イエスはまた、過越しの祝いに使われる杯を取って、これはイエスの血による「新しい契約」だと宣言なさいました。



聖書で神が契約を与えられたとき、すべては血によって承認されました。（創世記 8 : 20、15 : 9-10）

ヘブル 9:22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。

イエスは 28 節で、この「新しい契約」が私たちの罪の赦しのために導入されるとおっしゃいました。

イエスは、ご自身のいのちをささげて、犠牲の死を遂げる覚悟でおられました。それは、イエスを信じるすべての人々が、聖なる神に対する罪を赦されるためです。

イエスは、ご自身が身代わりのいけにえだとおっしゃいました。

人々のためにご自身が死なれるのです。

人々のいのちを救うために、ご自身のいのちをささげられたのです。

最後に皆さんにお尋ねします。

イエス・キリストは、あなたの身代わりのいけにえだと信じていますか。